

卒業生アンケート結果の検討（介護福祉専攻）

（回答者：46 名）

1. 社会福祉学科介護福祉専攻の教育の成果と課題（DP との関係から）

・DP 1 では、「人に対して暖かい眼差しを持ち、あらゆる場面において人権を尊重し、行動することができる倫理観を有している」ことを掲げている。DP 1 に係るアンケート項目「介護福祉士としての倫理観」について、在学中に「十分身についた」及び「身についた」の合計で 97.8%である。また、勤務先において「大変役立っている」「役立っている」「役立っていることもある」の合計で 91.3%であることから、本学の教育（介護福祉論Ⅰ・Ⅱ、介護実習指導Ⅰ・Ⅱなど（カリキュラム・マップを参照））で介護福祉士としての倫理観が養われ、それが勤務先でも発揮されていることが伺える。

・DP 2 では、「地域社会の変化に関心を持ち、福祉の担い手として主体的に発展・向上させることができる専門的知識・技術を有している」ことを掲げている。DP 2 に係るアンケート項目「介護に関する専門的知識」について、在学中に「十分身についた」及び「身についた」の合計で 93.5%である。また、勤務先において「大変役立っている」「役立っている」「役立っていることもある」の合計で 95.7%であることから、本学の教育で介護に関する専門的知識（社会福祉Ⅱ、発達と老化Ⅱなど（カリキュラム・マップを参照））が修得され、それが勤務先でも活用されていることが伺える。他方、アンケート項目「介護技術を活用する能力」については、それぞれ 84.7%、89.1%と「介護に関する専門的知識」と比べてやや劣る。教育的成果を高めるため、当該能力向上に向けた更なる教育的工夫が望まれる（カリキュラム・マップを参照）。

・DP 3 では、「サービス利用者の自立と自己実現を目指して、保健・医療分野と連携しチームワーク、リーダーシップなど他者と協調・協働できる能力を有している」ことを掲げている。DP 3 に係るアンケート項目「他職種と協働する能力」及び「チームで介護を実践する能力」について、在学中に「十分身についた」及び「身についた」の合計は共に 76.1%と低調であったが、勤務先において「大変役立っている」「役立っている」「役立っていることもある」の合計で、それぞれ 93.5%、91.3%である。チームでの介護実践やリーダーシップは、実務経験を通して育まれる側面が強いものの、当該能力向上に向けた更なる教育的工夫が望まれる（カリキュラム・マップを参照）。

・DP 4 では、「多様な福祉ニーズに対応できるような、論理的思考力や創造的思考力を有している」ことを掲げている。DP 4 に係るアンケート項目「介護過程を展開する能力」について、在学中に「十分身についた」及び「身についた」の合計で 89.2%である。また、勤務先において「大変役立っている」「役立っている」「役立っていることもある」の合計で 91.3%であることから、本学の教育（介護過程Ⅰ・Ⅳ、介護実習ⅡA・ⅡB など）で介護過程を展開する能力が養われ、それが勤務先で発揮されていることが伺える。

・DP 5 では、「専門職業人としての自己管理能力や生涯学習能力を備えている」ことを掲げている。DP 5 に係るアンケート項目「自己管理能力（セルフマネジメント能力）」及び「生涯学習能力」について、在学中に「十分身についた」及び「身についた」の合計でそれぞれ 78.3%、84.8%と、やや低調であった。他方、勤務先において「大変役立っている」「役立っている」「役立っていることもある」の合計で、それぞれ 93.5%、95.6%であることから、本学の教育で不足している部分があるものの、勤務先において当該能力が活かされていることが伺える。教育的成果を高めるため、当該能力向上に向けた更なる教育的工夫が望まれる（カリキュラム・マップを参照）。

2. 今後の教育の質の向上のために改善できる点（改善策）

・DP 3 との関係で、「他職種と協働する能力」の向上に向けて多職種理解を深めるために、他職種（例えば、社会福祉士、看護師など）をゲストスピーカーとして招聘する。

・相対的に低調であった DP 3 及び DP 5 は、卒後教育等として必要な観点である。このため本学におけるリカレント教育の在り方を踏まえて検討する。